

- 5年に一度の全国和牛能力共進会へ出品し、**県和牛のブランド力向上**に向け、特別な管理を行うための支援を行った。
- 和牛育種組合や西部協議会と連携して活動を支援した
- 西部協議会の出品区対策委員として地域の共進会で活動支援を行った。
- 西部地区の出品者は**全員が優等賞を獲得**した。
- 西部普及所職員も群出品のハンドラーを務め貢献。技術向上に繋がった。
- 西部地区の生産者からは第13回北海道全共へ向けて意欲が高まった。

具体的な成果

- JAを中心とした関係機関の連携、生産者との信頼関係の醸成が功を奏し、西部地区の出品者は第4区と第5区での優等賞5席を筆頭に**全員が優等賞を獲得**した。
- 西部普及所職員も群出品のハンドラーを務め、優等賞獲得に貢献することができた。また、支援を通じ、JAをはじめ**関係機関職員の技術向上**が図られた。
- 後日開催された、第13回全共戦略会議では、「**普及所、家保、振興局などの県の支援体制は良い仕組み**」との委員の意見があった。
- 西部地区の生産者からは第13回北海道全共に向けた意欲が高まっている。

普及指導員の活動

- JA、家畜保健衛生所等と連携し、**特別な管理支援が必要な農家の支援**を担当し、平日の午後、ブラッシング・調教等の作業を実施した。
- 支援日数(R4 5～全共前)
 - ・牛舎への訪問 73日
 - ・引き運動 53日
 - ・蹄洗い 62日 ・牛体洗浄 31日
 - ・調教 49日
- 全共会場での支援(7日間)
 - ・牛・飼養管理資材・資料・飲用水の搬入・搬出・管理
 - ・飼養管理の補助(飲用水の補充など)
 - ・出品牛の排せつ物の処理
 - ・牛体手入れ・洗浄
 - ・ゆたん・雑巾の洗濯

普及指導員だからできたこと

- 農家、JA等現場と日頃から近い関係性で業務を行っており、大切な牛を任せろうえで**農家の信頼**が得やすかったこと。



和子牛の生産性向上支援 全国和牛能力共進会に係る普及活動

活動期間：令和元年～継続中

1. 取組の背景

全国和牛能力共進会（全共）は5年に一度、全国の選りすぐられた和牛を一堂に会し、その品質を競う全国大会で、和牛のブランド力向上を図る場であり、その第12回目となる大会が令和4年10月鹿児島県霧島市を主会場に行われた。この大会への出品に向けて、当普及所管内を中心としたJA鳥取西部管内の生産者は、前回の宮城全共終了後から取り組みを重ねてきた。

令和元年度には、第12回全国共鳥取西部農協出品対策協議会設立され、JAと県関係機関が一体となり、全共に取り組む生産者を支援していく体制が作られ、出品に向けて様々な取組が行われてきた。

令和4年度は大会の開催年度であり、全共種牛区出品に向け、県代表を勝ち取った上で、候補牛を最良の状態で出品するためには、運動、調教、牛体洗浄、蹄洗いなど特別な管理が必要であるが、農家は通常の管理業務で手いっぱいであるため、いかにして特別な管理をやりきるかが課題となっており、その課題を克服したうえで大会での上位入賞を目指すことを目的に活動を行った。

2. 活動内容（詳細）

(1) 地域候補牛の選抜

令和3年度から、地域の巡回、県調査会等の出品を通じて、地域候補牛を絞り込みを行った。その結果、令和4年5月に開催された県一次審査会に地域から24頭を出品し、21頭が選抜された。7月末に開催された県最終予選会には18頭を出品し、種牛区では12頭全てが西部地区より選抜されたが、農家の高齢化による体力面、1戸に多くの候補牛が偏在するなど労力的な課題が残った。

表 鳥取県西部地区の肉用牛経営の特徴

飼育頭数はR4.2.1現在

地区	飼育戸数	肉用牛頭数	繁殖成雌頭数	繁殖育成頭数	繁殖牛の占有割合	宮城全共出品戸数
東部	54	5872	1249	168	24.1%	肉牛2戸2頭
中部	114	12220	1545	307	15.1%	肉牛4戸4頭 種牛1戸3頭
西部	119	3434	1577	337	55.7%	肉牛1戸2頭 種牛7戸15頭
うち大山普及所管内	39	1597	674	110	49.1%	肉牛1戸2頭 種牛1戸1頭
うち西部普及所管内	44	1438	632	187	56.9%	種牛4戸12頭
うち日野普及所管内	36	399	271	40	77.9%	種牛2戸2頭

西部地域は繁殖農家の割合が高く、和牛全共の種牛区への取組意識も高い

(2) 特別な管理支援

J A、家保等と連携し、特別な管理支援が必要な農家を分担して支援することとなり、一次審査会の結果を受けて、分担を決定。当普及所は、候補牛を多数管理する農家への支援を担当することとなった。

平日は基本的に毎日午後、牛舎を訪問し、以下の作業を実施。

- ・ブラッシング（金櫛、刷毛）（図1）
- ・引き運動（一周 450m の山道を2周）・・・雨天中止
- ・蹄洗い（ワイヤーブラシ、金ペラ、ラード塗布）・・・雨天中止
- ・牛体洗浄（毛づくり期（7月下旬より開始）にはシャンプー・リンスまたは椿油＋焼酎（1：5）の噴霧）・・・雨天中止
- ・調教（ハセ、バの綱から正姿勢、後肢を広く強く踏ませる、頭を上げる）（図2）

令和4年5月下旬から全共前にわたる約4か月間で、牛舎への訪問支援日数は73日に上った。



図1 牛体洗浄の様子

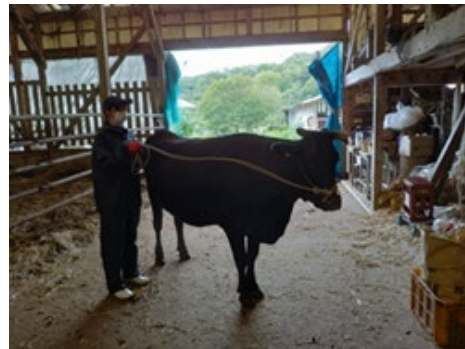


図2 調教の様子

(3) 本番での支援

鹿児島会場では、7日間にわたり、早朝から日暮れまで支援活動を実施した。支援活動内容は、牛・飼養管理用資材・飼料・飲用水の搬入・搬出・管理、飼養管理の補助（飲用水の補充・水槽の清掃・除糞など）、出品牛の排せつ物の処理（図3）、牛体手入れ・洗浄、ゆたん、雑巾の洗濯、ハンドラー業務（調教、洗い場への牛の誘導、審査時の牛の誘導）等々を行った（図2）。



図3 牛舎での糞取の様子



図4 審査会場で引手を務める

3. 具体的な成果（詳細）

(1)出品牛の成績

西部地区出品者は全員が優等賞を獲得、当普及所職員が引手を務めた第4区では高評価の証である最前列への引き出しを受け、優等賞5席を獲得することができた。また、支援を行ってきた第5区でも最前列の優等賞5席を獲得できた。

(2)運動調教等の管理技術の向上

5年に一度開催される和牛全共出品候補牛に対する運動調教等の管理内容を確認記録し、今後の出品希望者への手引きとすると同時に、実体験を積み重ねることにより関係機関職員の技術向上が図られた。

(3)支援体制づくり

J A、家保等と連携して構築した特別な管理支援分担体制については評価が高く、今後につながる良い事例となった。

4. 農家等からの評価・コメント（出品者）

普及所、家保、振興局などの県の支援は良い仕組みである。
（第13回全共戦略会議にて）

5. 普及指導員のコメント（西部農業改良普及所・普及主幹・高取等）

候補牛のコンディションについて農家、J Aと情報を共有しながら管理支援を行ったことが成果につながったものと考えている。

6. 現状・今後の展開等

第13回全共北海道大会に向けての課題

- ・経営環境が厳しくなる中での和牛経営の維持。
- ・多くの生産者の取組につながる体制の検討や、特定の生産者への労力集中を防ぎ、労力の分散化を図ること。
- ・管内生産者による優良牛の保留、導入等による候補牛の確保。
- ・J Aを中心とした支援機関および取組生産者の出品技術維持向上。

